サトイモ乾腐病ってこんな病気！

農林水産研究所

病原菌と被害

◎病原菌（かび）：*Fusarium solani*（フザリウム　ソラニー）

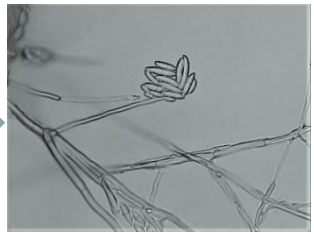
◎被害：生育中の葉や葉柄に病徴が現れない場合が多く、収穫した芋を切断して初めて発病していることに気づきます。
芋を切断すると**赤色小斑点や赤褐変症状**がみられます。症状が進むと**スポンジ状に乾腐して空洞化**します。
被害の発生頻度は、親芋や子芋で多く、孫芋では少ない傾向にあります。

伝染経路

種　芋　伝　染

病原菌が種芋に残存し、サトイモの生育中に親芋や子芋に伝染する

発病



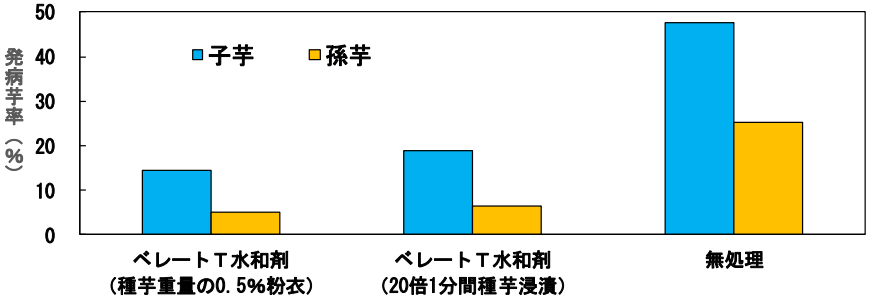
病原菌（菌糸と分生子）

土　壌　伝　染

病原菌が発病残渣とともに土壌中に残存し、サトイモの発根部や傷口から侵入する

防除対策

◎発病圃場からの採取芋は、外観健全でも保菌している可能性が高い
　⇒**種芋は無発病の圃場から収穫した健全な子芋、孫芋を使用**しましょう。

◎病原菌は、被害残渣とともに土壌中に長く生存
　⇒**連作を避け、イネ科作物と輪作**をしましょう。**水田化は有効**です。
　⇒トラクターのロータリーに付着した汚染土（病原菌が残存）を他圃場に持ち込まないようにしましょう。
　⇒土壌消毒（バスアミド微粒剤、キルパーなど）の実施

◎ベンレートＴ水和剤の種芋消毒（黒斑病に登録）は、発病芋率の軽減効果がみられます。